



OPEN LABO.の学生スタッフと打ち上げ
薬草園にてスイカパーティー

盛夏

オープンラボ新聞

発行人
StudioNoguchi



オープンラボ
ショート動画

7月21日(日) 晴れ「今日は環境について考える1日だ!」

夏休みは オープンラボで決まり!

2024年7月21日(日) 本年度
四回目のオープンラボが開催された。
夏休み初めの日曜日ということ、
多くの来場者でにぎわった(参加者
は37名)。今回の分野は生物、化
学そして検査である。

そう。懐の深さがオープンラボのウ
リである。今回はどのようなテーマ
だったのか。スタッフによる調査結
果をまとめた。

海岸に出て漂流物を調査しよう!

マイクロプラスチック回収

海岸に行ったとき、みなさまは何を
見ますか? 透き通る水面や白い雲で
はないでしょうか。海岸には様々な
ものが流れ着きます。今回は、海洋
汚染問題となっているマイクロプラ
スチック(5mm以下)を、大学前の
銚子マリーナ海水浴場で回収しまし
た。実際に見てみると、とても小さ
いので、ゴミ拾いの様
に簡単には拾えま
せん。小さくな
る前に回収す
ること、ごみ
を出さないこ
とが、とても
大事だという
事に気が付いて
いただけたと思います。

今日集めたプラスチックは162個。
プラスチック162個分海を
綺麗にすることに貢献しました!

参加者アンケートより抜粋



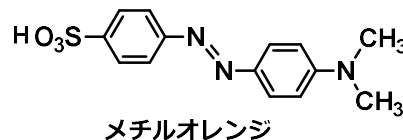
初参加のスタッフ学生の声

海岸に出るので、参加者の安全を確
保するために、常に全体に気を配っ
ていたのですが、皆さんが砂浜で楽
しく活動をしていたのが印象的でし
た。自分自身、初めて漂着マイクロ
プラスチックの回収に参加し、思っ
ていた以上に砂浜から回収できるこ
とに驚きました。講義では、プラ
スチックの多くが浮かずに沈んでいる
という話を聞き、目に見えていない
ゴミも沢山あることを理解しました。



大学をバックにマイクロプラスチック調査団の集合写真

作って実感、使って感動！ 指示薬メチルオレンジを作ろう！



どうしてこうなるかわからないけど、
いつか分かるようになりたい

(来場者アンケート
自由記入欄抜粋)

来場者アンケートの自由記入欄を抜粋します。
▽このラボの講座を受講すればだれでも化学が楽しくなるし、興味が掻き立てられるに違いない！とても素晴らしい内容でした。子どももとても楽しかった様子で「楽しかった」と、終わった後、ふいにつぶやくほどでした。
▽その場で学生ボランティアが海水を汲みに行き、合成したメチルオレンジでpHを測定をしました。1時間半の実験があつという間に感じました。

▽今回の体験でろ過ピンを作るのと、メチルオレンジの作成のために様々な水溶液を入れるところが楽しかったです。
▽海水、経口補水液に対しフェノールフタレイン液、BTB、MOを使った実験結果に驚きました。これからも科学についてたくさん学びたいです。
など、多くのコメントをいただきました。このテーマは作る喜び、使う喜びを同時に味わえるよう設計しました。参加者は自分で作ったろ過ピンでメチルオレンジを回収し、合成したメチルオレンジを使用して、様々な溶液のpHを測定しました。

インフルエンザ検査体験により 診断に関わってみよう！



実験のメニュー

「インフルエンザ検査の検査材料採取から
検査診断までの体験メニュー」

- ①インフルエンザウイルスはどんなやつ！
- ②検査材料を取ってみよう！（採取編）
- ③抗体を使ってウイルスを捕まえてみよう！（検査編）
- ④ウイルス捕まえられたかな？（判定編）



インフルエンザの勉強をした後は、早速実践だ。模擬人形の鼻に、綿棒を入れ、検査材料を採取する。
「意外と奥までいれるんですね。」参加者は一様に驚いていた。

10cmぐらい入っていることに驚きました

模擬人形での演習の後には、自分の鼻の粘膜をとって検査する。検査キッドによる判定にトライだ。インフルエンザA型、B型陽性、もしくは陰性の結果の判定までできる。
「自分の鼻のねんまくをとって検査して、陰性とわかってよかったです」参加した中高生たちは検査の所作とその理由をまなび、検査が身近なものに感じたのではなからうか。



今日大活躍してくれた「模擬人形」と一緒に記念撮影！